

F D 活 動 報 告 書

2009

この報告書は、文星芸術大学学則第2条1項、5項、6項及び大学院学則第3条1項、4項、5項に基づいて平成21年度FDに関する活動等の内容をまとめたものである。

学則 第2条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、本学の設置目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

5項 本学は、教授法や授業運営などの改善や教育活動にかかる知識・技能・能力の獲得又は向上を組織的に支援するために、ファカルティ・ディベロップメント活動を実施するものとする。

6項 ファカルティ・ディベロップメント活動の実施体制並びに方法については、別に定める。

※ 大学院学則におけるFD関係の内容は学部と同じ

【1】	F D会議報告	1
【2】	学生による授業評価アンケート結果	4
【3】	実技系大学院研究科博士課程の学位について	10
【4】	講義概要の改善について	18
【5】	教員研修	18
【6】	教員の研究業績一覧	19
【7】	その他	27
	(1) 公開講座	
	(2) 高大連携授業	
	(3) 第5回とちぎことも芸術祭	
	(4) 栃木県高等学校文化連盟美術工芸部会	
	(5) 「日光展」について	
【8】	文星芸術大学F D会議要項	30

【1】 F D会議報告

第1回 平成21年4月30日(木)午後1時30分

議題

- (1) 平成21年度FD活動内容について
- (2) 平成20年度FD報告書について
- (3) 平成21年度授業評価アンケートについて
- (4) その他

決定事項

- (1) FD会議の位置付けとして、決議機関ではなく、大学教育に関する全般に問題点・改善点を提示し、各委員会等に割り振って実行してもらう立場とする。
 - ・新任教員研修は合宿研修を利用し行ったが、来年度以降、大学全体の組織や事務的内容、三敬精神、教育理念・目的などを具体的に分かるように教員に合宿研修を利用し理解させていく。
 - ・専攻教育マップは全学生をはじめ、新任教員も理解できるような内容のものになるよう、更に検討する。
 - ・全専攻参加型ギャラリー展示はギャラリー運営委員会を中心に、地域の人々にも興味を持ってもらえるよう検討し、「日光観光学」的な内容で展示をする方向で進めていく。
- (2) ・平成20年度のアンケート結果を参考に、FD報告書として作成する。
 - ・報告書をホームページや図書館、各専攻を通し各教職員、学生が知ることが出来るようにする。
- (3) ・発注しており、5月22日より順次実施していく。
 - ・今年度の内容は昨年度と同様とする。(アニメーション専攻分は追加済)
 - ・設問内容の改善については引き続き検討していく。

第2回 平成21年10月22日(木)午後3時

議題

- (1) FD報告書について
- (2) 日光展(1) について
- (3) 教員業績調書情報開示について
- (4) その他

決定事項

- (1) 今回、作成した案に手を加え完成させ、教授会を経て、最終的にはホームページ等で公開する。
 - ・自己点検・第三者評価にも関与するので、遅くとも年内に発行をする。
- (2) 日光展を全専攻参加型・大学全体の企画とし、北斗祭の時期に合わせ、毎年開催する。
 - ・日光に関連する科目をまとめ、日光学として位置付ける。現在、7科目の開講科目があり、授業終了時に各担当教員から講義ノートの提出をしてもらい冊子にまとめる。

- (3) 大学院設置基準改正を考慮し、教育理念・人材育成等について、明文化していく。
・大学院に関して、修了要件・博士の学位取得・担当教員資格の明確化を図る。

第3回 平成21年11月26日(木) 午後16時35分

議題

- (1) FD 報告書最終案について
- (2) 教員業績調書について
- (3) 学位取得関係について
- (4) シラバス(大学院)について
- (5) その他

決定事項

- (1)・(2)「平成20年度FD報告書」として今回詰めた個所を訂正し、議題(2)の「教員業績調書」の内容を差し込み、完成した報告書の原案を12月10日教授会で報告及び説明をし、ホームページにて掲載する。
- (3) 大学院学位規定の整備を含め、研究指導教員の基準などを整理するために、FD会議から発案し人事委員会や部局長会議、研究科委員会に持ち上げる。
- (4) 議題(3)と合わせて、教育課程とともに内容の向上を図っていく。FDで検討していきたい。
- (5)「日光学」が大学の特徴となるように、「日光」というテーマで全学的に取り組んでいけるように進めていく。

第1回目の日光展を整備し、日本画専攻の天井画展を日光展と絡めたり、他のギャラリーでの展示を「日光」と絡めたりと、実技科目も「日光関連科目」として形を決めず広げていく。カリキュラムにもどのように組み込んでいけるか今後検討していく。

第4回 平成22年1月28日(木) 午後15時00分

議題

- (1) 平成21年度FD活動状況について
 - ・FD報告書
 - ・授業評価アンケート
 - ・シラバス
 - ・教育開発のための展覧会
 - ・新任教員の研修
 - ・その他
- (2) 平成22年度FD活動内容について
- (3) その他

決定事項

- (1) 完成された「平成20年度FD報告書」は大学ホームページに掲載、及び100部印刷し、閲覧できるようにする。ホームページ掲載時にはPDFファイルにて掲載する。

授業評価アンケートは3月に集計が出来るため、それを処理し平成21年度版FD活動報告書を作成する。作成の目途を5月頃とする。

アンケート内容について、5年間はほぼ同じ設問で傾向を探る。その後、設問内容を改善するために検討していく必要がある。来年度のアンケート結果より、記述欄のフィードバックも行う。大学院生への授業評価アンケートも実施の方向で検討していく。

シラバスについては来年度よりWEBシラバスを導入するため、うまく機能するよう、又、更なる改善を進めていけるようFDで検討していく。

- (2) 日光展について、ギャラリーでの展示や「日光関連科目」等、今後も日光をテーマに地域社会と密着した「日光展」を更に研究検討していく。
- (3) 新任教員研修について、新入生合宿研修を有効活用し行う。

【2】 学生による授業評価アンケート

①実施方法

- ・マークシート方式と記述式を併せた無記名のアンケート用紙を用いた。
- ・授業終了時間の20～30分前にアンケート用紙を配布し、終了後は速やかに回収する。
- ・教員による不正がないように、教員は、助手又は学生代表1名を指名し、実施方法を指示した後、教室を退出する。
- ・アンケート終了後、学生がアンケート用紙を回収、封入、糊付けする。
- ・回収、封入したアンケート用紙を速やかに大学事務局教務課に提出する。
- ・オムニバス形式の授業については、科目責任者が対象となり実施する。

②実施対象

- ・講義（教養科目、共通基礎科目、専門教育科目）全科目
- ・実技 1年共通基礎科目（美術基礎演習Ⅰ、Ⅱ除く）全科目

2年以降専門教育科目、専任教員各1科目

※教育実習、博物館実習、ゼミナール、卒業研究、卒業制作、学外研修、大学院領域専門科目を除く学部・大学院で開講している科目

【平成21年度】

内 訳	総科目	回収 科目	未回収 科目	実施 科目	全白紙 科目	総履 修者	実施科目 履修者	読取枚数	有効回答者数	回答率
芸大—講義	87	81	6	81	0	4,301	4,135	2,963	2,491	60.24%
芸大—実技	90	86	4	86	0	1,351	1,305	1,121	1,093	83.75%
合 計	177	167	10	167	0	5,652	5,440	4,084	3,584	64.69%

③実施期間

授業終了の2週間前から実施

【前期】平成21年7月13日 ～ 平成21年7月29日

【後期】平成22年1月18日 ～ 平成22年1月29日

※担当教員の裁量により、実施日を変更しても構わない。

④集計結果

集計結果の平均値が表1、2である。

昨年度と同じ設問でアンケートを実施した。

アンケート内容は講義と実技に分かれている。

講義集計結果【表1】

No.		平均	日本画	油画	彫刻	デザイン	DG	マンガ	アニメ	染織	陶芸	芸術理論
この授業について												
1	この講義は、講義概要（シラバス）にしたがって行われた。	4.02	4.41	4.32	3.65	3.96	3.94	3.91	3.78	4.14	3.60	4.06
2	この授業は、私語が無く静かだった。	3.92	4.28	4.16	3.41	3.84	3.84	3.88	3.77	3.98	3.73	3.98
3	この授業は、休講が少なかった。	4.14	4.47	4.38	3.58	4.08	4.03	4.04	4.15	4.34	3.81	4.29
担当教員について												
4	この授業の教員は、声や言葉などが聞き取りやすかった。	3.98	4.26	4.24	3.54	3.88	3.92	3.91	3.81	4.27	3.89	4.14
5	この授業の教員は、熱意をもって授業を行っていた。	4.13	4.42	4.43	3.66	4.06	3.98	4.02	3.94	4.35	4.14	4.30
6	この授業の教員は、教材（テキスト・プリント・AV機器など）適切に用いた。	4.08	4.43	4.30	3.64	4.00	3.98	3.98	3.95	4.39	4.10	4.18
7	この授業の教員は、講義時間を守っていた。	4.07	4.28	4.34	3.66	4.01	4.03	4.01	4.06	4.33	3.84	3.91
8	この授業の教員は、学生からの質問に対し適切に応じていた。	3.92	4.36	4.21	3.49	3.84	3.90	3.78	3.65	4.30	3.79	3.97
あなた自身について												
9	この授業は、理解しやすかった。	3.70	4.01	3.92	3.34	3.66	3.53	3.61	3.49	4.09	3.41	3.69
10	この授業の内容に関して、興味が持てた。	3.86	4.19	4.06	3.58	3.78	3.68	3.75	3.71	4.14	3.81	3.92
11	わからないことには、質問したり、調べたりした。	3.47	3.89	3.56	3.23	3.36	3.39	3.49	3.34	3.78	3.10	3.02
12	この授業に対する出席の割合は。	4.19	4.43	4.42	4.12	4.26	3.73	4.05	4.39	4.31	3.79	3.82
13	この授業は自分に役立つと思った。	3.93	4.27	4.22	3.75	3.87	3.76	3.79	3.72	4.14	3.74	3.89
授業の評価について												
14	この授業を他の学生にも薦めたいと思った。	3.77	4.08	4.07	3.41	3.75	3.55	3.60	3.66	4.12	3.65	3.75
15	総合的に判断して、この授業には満足した。	3.84	4.18	4.09	3.48	3.74	3.82	3.72	3.73	4.18	3.78	3.84

実技集計結果【表2】

No.		平均	日本画	油画	彫刻	デザイン	D G	マンガ	アニメ	染織	陶芸	芸術理論
授業内容												
1	この授業での課題の出題意図はわかりやすかった。	4.09	4.23	4.24	3.78	3.98	4.09	4.08	3.80	4.08	4.35	4.76
2	この授業での制作期間は適切だった。	3.76	3.67	3.98	3.40	3.68	3.85	3.77	3.61	3.81	3.75	3.76
3	この授業での課題制作は難しかった。	3.24	3.07	3.08	3.62	3.20	3.04	3.28	3.41	3.32	3.70	3.82
施設・機材												
4	この授業に対する制作スペースは、十分だった。	3.96	4.07	3.93	3.58	3.98	4.02	4.02	3.77	4.16	3.35	4.12
5	この授業に対する設備・機材は十分だった。	3.94	3.99	4.08	3.56	3.93	3.83	3.94	3.78	4.32	3.65	3.75
6	この授業に対する設備・機材は使いやすかった。	3.83	3.98	3.94	3.45	3.82	3.62	3.84	3.48	4.30	3.75	3.69
7	この授業に対するモチーフ・モデルは適切だった。	3.91	4.06	4.16	3.51	3.91	3.81	3.83	3.65	4.14	3.79	3.67
担当教員												
8	この授業の教員は、声や言葉などが聞き取りやすかった。	4.16	4.38	4.31	3.78	4.12	4.02	4.10	4.06	4.43	4.15	4.38
9	この授業の教員は、熱意をもって指導していた。	4.21	4.35	4.37	3.84	4.14	4.13	4.17	4.08	4.46	4.30	4.44
10	この授業の教員は、教材(プリント・VTR等)適切に用いた。	3.89	3.88	4.09	3.49	3.84	3.90	3.91	3.49	4.14	3.85	3.88
11	この授業の教員の指導時間は適切であった。	3.83	3.88	4.13	3.55	3.75	3.83	3.73	3.65	4.27	3.90	3.71
12	この授業の教員は、学生からの質問に対し適切に応じていた。	4.23	4.39	4.46	3.01	4.16	4.28	4.13	3.94	4.38	4.35	4.65
学生自身												
13	この授業は自分に役立つと思った。	4.30	4.39	4.45	4.00	4.32	4.30	4.23	3.94	4.41	4.25	4.65
14	分からないことは、自分から質問したり調べたりした。	3.74	4.10	3.84	3.31	3.81	3.48	3.68	3.52	3.70	3.45	3.94
15	この授業にはよく出席した。	4.10	4.08	4.04	4.02	4.24	3.72	4.09	4.27	4.05	4.05	3.71
授業評価												
16	この授業には満足した。	4.08	4.14	4.20	4.09	4.09	4.02	4.01	3.67	4.35	3.95	4.65
17	この授業を他の学生にも薦めたいと思った。	3.97	4.17	4.13	3.56	3.99	3.87	3.87	3.57	4.41	4.00	4.24

⑤総評

(1) 集計結果

	2006	2007	2008	2009
			昨年度	今年度
講義	3.62	3.76	3.88	3.93
実技	3.61	3.72	3.89	3.96

- ・ 5段階評価の平均が2006年度から講義・実技共に徐々に上がっており、授業評価アンケートの結果をもとに授業内容、方法の改善をし、シラバスに活かされている結果ではないかと思われる。
- ・ 全体的には教育方法は良い方向へ向かっているものと思われる
- ・ 実技では授業の特性から【設問10】に対する満足度は低かったが、今年度はどの専攻でも昨年度よりも少しずつ満足度が上がってきていることから、アンケートの結果を踏まえての各専攻での対応が伺える。
- ・ 学年別での集計結果を見ると、1年次から4年次にかけて総合的満足度が徐々に上がっており、学年が上がるにつれ授業に対する理解度も上がってきていると思われる。
- ・ 実技では各専攻共通【設問3】この授業での課題制作が難しかった、と感じている学生が多い半面、殆どの科が【設問13】この授業は自分に役立つと思った、と感じており平均が4以上となっている。課題に対する制作期間、難易度は、教員が達成目標としてレベルを設定していることや前年度の学生の結果も検証して出題していることを考慮して判断する必要がある。
- ・ 平成20年度よりアニメーション専攻が新設されたので、本年度よりアンケートが実施されることとなった。

(2) 記述欄について

- ・ アンケート用紙には記述欄も設けてあるが、その部分のフィードバックが無いため、個別学生の意見が取り入れにくい。又、設問事項に当てはまらない学生の声は聞こえにくい傾向がある。
- ・ 平成22年度から記述欄のアンケートもフィードバックする予定である。（大学院に関しても同様）

(3) 検討事項

- ・ アンケート内容については内容や目的の異なる講義を同一の質問項目で評価するのは無理がある為、設問内容が検討されてきた。
- ・ 授業内容に対する設問が3項目というのは少ないと思われる。
- ・ 学生のレベルや教員のねらいが一致するような設問内容にしていくことが望ましい。
- ・ しかしアンケート内容を実技系の設問に変更するのは非常に難しく、さらなる検討が必要である。あと3年間は同じ設問でアンケートを継続することとした。

(4) 今後について（アンケート実施後の対応）

- ・ 今回の報告書をHPに公表する。
- ・ 今後もアンケートは実施していくが、文星芸術大学の実技と講義の授業の特性に沿った設問内容を検討中である。（内容や目的の異なる講義を同一の質問項目で評価するのは無理がある。）
- ・ 調査結果を多方面から比較、分析し、教育方法の改善や、施設・設備・機材の充実にも役立てる。シラバスにも活かす。
- ・ 現在徐々にではあるが総合的に授業に対する評価は上がりつつある。昨年度目標とした平均4程度の数値に達成可能なところまでとなった。
- ・ アンケート集計結果は科目担当教員及び各科へフィードバックし教員自身の自己採点や次年度のカリキュラムの更なる見直しに役立てる。全体で共通なものは学部会議で知らせ、改善に役立てる。
- ・ 学生が下した評価に対し、教員がどのように受け止めているかの意見を聞くようにしたい。
- ・ アンケート実施からフィードバックまでに要する期間は約6カ月とする。

【3】実技系大学院研究科博士課程の学位について

□シンポジウム「演奏・創作と芸術研究」報告

- ・ 副題－芸術系大学院博士課程における学位授与プロセス
- ・ 主催－東京芸術大学大学院音楽研究科リサーチセンター主催
- ・ 日時－2009年12月19日(土) 13:30～17:00
- ・ 場所－東京芸術大学音楽学部5号館-109室
- ・ 参加者－上原利丸

■シンポジウム概要

● 基調講演

「演奏・創作と芸術研究－芸術系大学院博士課程における学位授与プロセス」

山縣熙(大阪芸術大学大学院研究科長)

夏目漱石に対して、当時の文部省から博士号授与があったが、漱石は「博士」に対する考え方の相違があり受理を拒否、その後再々受理の要請があったが、国が与えるものなのかどうかなど拒否理由を朝日新聞にその都度投稿している。又、道楽と職業の中でもそれと関連したことを述べている。当日は、その資料をもとに博士というものについての問いかけを導入に講演題目に関して講演。

山縣先生は、東大の文学部(美学芸術学)卒業後、修士、博士へと進む。当時の博士主任教授は博士否定論者で、その理由は「3年で文学博士などおこがましい」ということであった。先生は、ちょっとした経緯から博士への進学が認められた。その後フランス留学、神戸大学就任を経て2001年から大阪芸術大学へ赴任し、2005年に大阪芸術大学において実技系の博士後期課程の設置を行った。以下講演で気に留めた言葉を羅列してみる。

1. 博士(はかせ)の語義、広辞苑によると

- ①学問またはその道に広く通じた人
- ②律令時代の官名
- ③明治初年大学生の教授、国史の修撰、洋書の翻訳、疾病の治療をつかさどった奏任官
- ④学位としての博士(はくし)の俗称
- ⑤声明(しょうみょう)・催馬楽・朗詠などで用いられる線形の譜

博士(はかせ)としては学位の博士(はくし)として4番目に出てくる。しかも「はくし」の俗称となっている。

博士(はくし)の語義は、自立的研究能力と学識とを有する者に授与される学位。現在の制度では、大学院の博士課程を修了し、大学院または学位授与機構に提出した博士論文の審査および試験に合格した者に授けられるもの(課程博士)と、博士論文の審査と試験に合格し、学力の確認を得た者に授けられるもの(論文博士)とがある。

※語義としては、学位は博士(はかせ)ではなく博士(はくし)ということである。

2. 実技系に博士は可能か必要か

- ・ 日本語をフランス語に翻訳するときにならずしもそれに該当する言葉は見当たらないこともある。その逆も然り。
- ・ かならずしも言葉が見当たらないことと関連して、画家が絵を描くことも翻訳である。

3. 論文指導について

○ 論文とはどういうことか

- ・ 言葉にすること＝翻訳→言葉にしないとマニュアル化できない
- ・ 実技系→自分の作品に添ってあるべき
- ・ 自分が第一走者である(独創性)

○ 実技系に論文はいるか

- ・ 感覚は、はかなく消えていくから言葉によって骨組を与えていく
- ・ いい論文を書くことが作品を成長させる
- ・ 理論と実践をともなった論文がよい論文

● パネルディスカッション

- ・ パネリスト 柿沼敏江(京都市立芸術大学教授)
藤本一子(国立音楽大学教授)
越川倫明(東京芸術大学美術学部教授)
永井和子(東京芸術大学音楽学部教授)
山縣 熙(大阪芸術大学大学院研究科長)
- ・ 司会 大角欣矢(東京芸術大学音楽学部教授・音楽リサーチセンター運営委員)

● パネリスト報告概要

○ 京都芸大の現状

- ・ 論文や研究面での標準的なタイムスケジュール
1年次：研究発表
2年次に紀要論文執筆。内部査読→候補者試験(予備審査にあたる)
3年次：博士論文執筆→3年で学位取得者は少ない。
- ・ 論文の内容：演奏の内容に直結する内容のものが増えつつある。

1. アメリカのシステム(カリフォルニア大学サンディエゴ校の場合)ー作曲、現代音楽

- ・ 学部1回生でWritingの授業、文章の書き方、レポートの書き方を指導
- ・ 修士1回生(あるいは博士1回生)Research Problemの授業で文献検索、資料集めなどの方法を習得。文献表を作る、これによって研究の基礎ができる。

- ・ 博士課程では2年間(授業のみ)コースワークを行う。修士以上、博士限定必修、各授業でレポート(書く練習)
- ・ Doctoral Committee の形成
主任指導教員(専門領域の教員)
副指導教員 2名(音楽学部から)
副指導教員 2名(他学部から)
- ・ 候補者試験(Qualifying Exam)のための3つのテーマを選び、それぞれについて先生を見つけて研究(約1年間)
- ・ 候補者試験
12日間で3つの論文(3つのうち1つを作曲については作曲でよい)
- ・ 博士論文執筆、博士作品作曲へ
演奏：リサイタル+博士論文
作曲：作品+作品に関連した研究、作品解説
- ・ Publishable paper を用意
論文指導教員を特に設けなくとも論文が書ける体制

2. 博士の学位とは何か

音楽に関する総合的な幅広い知識と能力を身に付けた上で、専門性を極めた人

- ・ アメリカの大学の場合
総合性と専門性のバランス
実技系も論文を書けなくてはならない。
音楽学専攻もある程度実技が出来なくてはならない(演奏の単位必修)
音楽学教員だけではなく、演奏の教員も論文指導を行う
- ・ 京都芸大の場合
今後の方向性として

専門性から総合性をより重視した体制、チェック機能の検討
演奏教員の論文指導への積極的な関わり

○ 国立音楽大学 藤本一子

[フランスの例]

1. 審査－国家が博士号を出す
 - ・ 法律(政令)で定められており、どの大学でも同じ
 - ・ 論文は指導教官とは別の予備レポーターに提出され、審査会を開くかどうか決定される
 - ・ 審査は公開で、数時間に及ぶ口答試問、中世の伝統に基づき「仮説・テーゼ」(論文)と「テーゼの擁護」(審査会)が議論
 - ・ 審査員は3～8名、半数は審査が行われている大学に属している者。

- ・ 口頭試問のあと、候補者と傍聴者を会場の外に出し、審議されて結果報告

2 演奏系の博士号について

これまで存在しなかったが、EUレベル改革を受け現在導入されつつある。2009年度秋からパリの高等音楽学院では、音楽演奏家博士号を可能にする課程が開設、パリ第4大学と共同によるもので、最終的に授与をオーガナイズするのは第4大学。

[国立音楽大学の場合]

1.概要

- ・ 博士学位取得者全員に、授業料相当の奨励金を授与(返済なし)
- ・ 研究コンサート
- ・ 博士論文指導体制 音楽学教員による隔週90分の指導
- ・ 「大学院研究年報」への投稿(実技の学生も一書かせる指導)

2.実技系博士論文の位置づけ

- ・ 音楽(演奏)に関する研究を言語で表現する意義きわめて高い
- ・ 実技と論文との関係：同等に重視(実技系の先生にはアンケートなし)

3.論文の内容に関して：演奏実践者ならでの論文

- ・ 音楽(作品)に関する演奏家ならでの洞察に基づく研究
- ・ 演奏体験とより密接に関わるもの：楽器の使用法、奏法、発声法など

4.学位審査のプロセス

- ・ 1年次、2年次－博士論文の指導(隔週90分)
- ・ 3年次－7月10日：プレ発表申請(7月中旬 学位申請論文プレ発表)
9月中旬：予備審査申請(9月下旬 学位申請論文予備審査)
本体の9割程度の完成を目指す
11月上旬：学位申請論文提出
翌年2月：学位申請論文審査：演奏(公開)／論文(非公開)

5.芸術系博士課程の現状と問題点

- ・ 広い視野と知見をもつ研究者の育成→教育者の養成へ
- ・ 学位取得者に活動の場(ポスト)を用意できるか

※修士課程

- ・ 実技系の学生は特定のテーマに関して研究し、これを「課題研究報告」として提出
1年次後期と2年次前期を通して週1回(90分)の指導授業→2年次秋に提出

○東京芸術大学－創作と論文 越川倫明

[東京芸術大学 後期博士課程設置概要]

昭和51年7月、文部大臣宛「東京芸術大学大学院博士課程設置計画書」が提出された。これ

は日本の美術大学として最初の博士後期課程設置申請書であった。

1.設置の趣旨、要約

近代文化の進展に伴い芸術文化も高度化し、芸術理論も極めて多岐に分化・変転しつつある時期において、芸術の研究を志す者は、独自の表現を己のうちに深めるとともに、それを理論的に客観化して研究、教育に役立て、あるいは歴史のうちに新たな創造への追求を試み、また新しい技法や素材を開発し、常に生動する芸術創造の場に触れ、己の研究を抽象論に終らせることなく、芸術の本質を深く究明しなければならない。このことは芸術に関する研究が学問上重視されるとともにより高度な芸術に関する研究者を養成するためには、芸術の分野についても博士課程を設置することが必要である。

※ 将来の博士課程における教員養成が当初の大きな目的の1つでもあったようだ。

2.実地視察委員との質疑応答(昭和52年2月15日)

- ・ 授業科目の創作総合研究について具体的な教育方法の内容についてお知らせ願いたい。
説明―淀井美術学部長から、創作総合研究は、大学院生各自の持つ研究計画について実技教官と理論の担当教員が協力して指導する。芸術の実技及び理論総合的研究を行うもので、学内総ての機能と協力によるものである。
- ・ 最後の問題として学位論文は課すのですか。また実技と論文とのウェイトはどのくらいか。
説明―淀井美術学部長、森事務局長から、学内の意見で論文は充分重視しなければならない。学内の協力によって、実技のみでなく論文も立派なものを考えている。彫刻家で云えばヘンリームアーの様な人を想定しております。

3.大学院設置審議会東京芸術大学実地視察(昭和52年2月15日)講評

- ・ 博士課程を設置するにあたって特に要望申し上げたいことは次の4点である。
 - (1)博士課程の設置の趣旨に添うよう、理論と実技の調和(総合的)を図るよう留意されたい。
 - (2)創作・創造研究領域においては、指導教官を明確にし、各教官の協力によってその実をあげたい。
 - (3)学位論文については、あくまで厳正な立場で対処してもらいたい。
 - (4)研究・教育施設については平常協力しておられるようだが、今後もさらに充実を図られたい。

※理論と実技は調和ということで、論文は実技の研究分野においても必要と指摘されている。

[越川倫明教授の説明からの抜粋]

1.美術研究科の事情・課題

- ・ 近年学位取得者の大幅増
- ・ 領域によるスタンスの多様性
- ・ 学生の全般的な論文執筆経験の乏しさ
- ・ 実技系論文の性格に関する共通認識の未確立―コンセンサスが成り立っていない

2.審査対象

- ・ 作品と論文
日本画・油画・版画・壁画・油画技法材料科・彫刻・彫金・鍛金・鍍金・陶芸・漆芸・染織・木工芸・ガラス造形・デザイン・美術教育
- ・ 論文のみ
建築理論・美学・日本東洋美術史・西洋美術史・工芸史・美術解剖学・保存科学
- ・ 作品と論文または論文のみ
建築設計・環境設計・構造計画・先端芸術表現・保存修復

3.美術実技系博士学位の意味

- ・ 学位申請者になにを要求するのか
実技の実力 VS 学術的な能力、あるいはその両方
「入学選考における最重視点」
 - 1)創作における能力(69.6%)
 - 2)創作面における実績(15.2%)「博士課程でどのような人材を育てるのか」
 - 1)作家として優れ、かつある程度理論的能力を持つ人材(48.8%)
- ・ 審査対象はどのようにあるべきか
作品が主 VS 論文が主、あるいは「同等」「両者は一体」など
「作品」と「論文」の評価上のウェイト
 - 1)作品を重視する(72.1%)
 - 2)作品・論文を同程度に重視する(27.9%)適切な配分比 7 : 3(29.3%)、次いで 6 : 4(17.1%)、5 : 5(17.1%)、8 : 2(14.6%)
- ・ 「作品」をどう評価するか
最も重視する点
 - 1)博士制作の独創性(73.3%)
 - 2)作家としての将来性(8.9%)2番目に重視する点
 - 1)作家としての将来性(34.9%)
 - 2)博士制作作品の高度な技術(32.6%)
 - 3)理論面における実績(19.5%)
- ・ 「論文」をどう評価するか
最も重視する点
 - 1)内容の独創性(52.2%)
 - 2)創作に役立つ研究であるか(36.6%)2番目に重視する点
 - 1)創作に役立つ研究であるか(36.6%)

2)論理に一貫性があるか(36.6%)

- ・ 実技系に博士にふさわしい論文とは
 - 1)創作の背景を説明する論文(33.3%)
 - 2)作家としての思想を表現する論文(33.3%)
 - 3)学術研究として優れた論文(20.0%)
 - 4)社会的有用性の高い論文

※ 実技系論文に関しては東京芸術大学でもその性格に関する共通認識コンセンサスができていないようである。「作品」と「論文」比率は 7:3 と考えている教員が多いようで、どちらもその独創性にウェイトを置いている。しかしながら、独創的な作品というものはどのようにして指導できるのか、又、審査員が判断、評価できるのかその質を考え合わせると美術の場合なかなか難しいと思われる。

● パネルディスカッション メモ書き報告

[永井和子 教授]

- ・ 当初演奏家に博士が必要かどうか疑問を感じていたが、今は必要なものと思っている。
- ・ 独唱の立場から、学位取得者のその後の場は現在与えられているのか、リサーチセンターの役割は大きい。サポート体制を確立していく必要がある。
- ・ 論文については演奏家でしか書けないもの、いわゆる実践の論文化(自分の言葉で言語化)がよいと考えている。
- ・ オペラについては博士論文は困難である。研究していくには舞台、演出者の数、演劇時間等、援助金なしでは不可能に近いので、受験希望があっても受け付けられない。

[柿沼敏江 教授]

- ・ 実践の論文化(自分の言葉で言語化)をする方法としては京都市立芸大ではアメリカ方式を採用している。

[藤本一子 教授]

- ・ 博士論文審査については外部からの審査員を今後入れるが、内輪的な存在の人では意味がない
- ・ 演奏博士と論文博士の区分はどうなっているか
- ・ 博士論文執筆能力があるか入学試験の時に論文能力を判断していく方向である。

[山縣熙 先生]

- ・ 実技系の論文は自分の制作にそったもの、その方が独創的な論文が生まれる。
- ・ 「独創性(論文)をどこで判断するのか又、保障するのか」の質問に対して、100%独創だったら分からない。判断したことの説明は人が知っていることで行っている。表現、感性

は未知なものである。保障については審査所見の公表(ポイント制、点数とか基準を設けて)とか考えられる。

- ・ おもしろさと独創性は違う
- ・ 論文の必要性は、例えば感覚を残すために言語化する、論理が先行するわけではない。科学と同様にはできない。
- ・ 言語＝翻訳、言語を演奏する。演奏を言語化する。
- ・ 言語はスタンダード(画一的、独創性を失う)、身体的なものはみんな違う。そこから独創性が生まれる。言語値と身体値は明確に区別できない。
- ・ 論文は実技系にとっても必須と考える。

■ シンポジウムに参加して

実技系博士課程は博士取得についてはまだまだ様々な点(論文と実技作品の位置づけ、学位の質、審査等)で確立されていないと感じた。本学でも博士後期課程の完成年度も終え、平成 21 年度実技系博士取得者(彫刻)が初めて出たが、審査の手続等で試行錯誤した。又、論文作成にいたるまでの教育課程の授業科目の不明確さ、主指導教員と副指導教員の連携、何よりも大学院研究科の教員の博士課程に対する認識不足が大きな課題と言える。

現在、大学内のFD会議、教務委員会等において、研究指導教員と研究指導補助教員の区分、大学院研究科教育課程の見直し、博士学位取得までの流れ、シラバス、大学院独自の授業アンケート方法等改善を進めている。今後、学位規定における審査の透明性に関わる条項の見直しも審議を重ね決定していかなければならない。何はともあれアドミッションポリシー(入学受け入れ方針)、カリキュラムポリシー、デュプロマポリシー(学位授与方針)をしつかり打ち立て、それにもとづいた諸問題の解決が必要と考える。

【4】講義概要（シラバス）の改善について

・WEBシラバスの導入

教員は前年度フィードバックされた授業アンケートを参考に、シラバスを作る際に昨年度との改善点を記入するようにした。

【5】教員研修

（1） 新入生合宿研修（新入生と新任教員の研修）

日 時 平成21年4月13日（月）・14日（火） 1泊2日

目 的

1. 建学の精神を学ぶ。
2. 高度の教養についての啓蒙に資する。
3. 地域社会・文化への理解を深める。
4. 学生と教職員間の交流親睦を図る。
5. カリキュラムの概要並びに履修方法等を伝達し円滑な学習活動が行えるよう協力を求める。

内 容

1. 学長による日光の歴史についての講話、大学施設についての説明
2. 理事長による命の話と、三敬精神についての講話を聞き、大学の建学精神を学ぶ
3. 学生生活について
 - ・学生生活向上委員会についての説明（相談員の紹介）
 - ・オフィスアワーについて
 - ・カウンセラー室について
 - ・セクシャルハラスメントについて（冊子を見ながら説明）
4. 授業の履修について
 - ・全体説明（共通事項説明、各専攻別説明）

【6】 教員の研究業績一覧（2009年4月～2010年3月）

◆ 荒井孝

- ・ 「補墜落の舟」、単著、月刊美術(9月)サンアートp.158～159
- ・ 「補墜落の舟」、単著、美術の窓年鑑(9月)、p.158
- ・ 「石割桜」、単著、日本画年鑑2010年版、マリア書房、p.29
- ・ 「補墜落の舟」、単著、美術の窓年鑑2010年版、生活の友社、p.55
- ・ 造形作品写真「万葉の散歩道（法輪寺）」、文星紀要21号(3月)、p.7

- ・ 第64回日本美術院春季展、日本橋三越本店ほか7カ所(3月～4月)、「瓢瓢」図録p.53
- ・ 第94回日本美術院展、東京都美術館他2カ所(9月)、「刻」、図録p.51
- ・ 桜時期展、さくら市ミュージアム(4月)、屏風2点F30 画集No.11～14
- ・ 個展、日本橋三越(7月)、仙台三越(8月)「万葉への散歩道」四曲一隻その他20点
- ・ 第65回日本美術院春季展、日本橋三越本店ほか5カ所(3月～4月)、「パウル」

◆ 宮北千織

- ・ 「天の川」、美術の窓、生活の友社(12月)、p.31～33
- ・ 造形作品写真「天の川」、文星芸術大学紀要21号(3月)、p.9

- ・ 第64回日本美術院春季展、日本橋三越本店(3月～4月)、「繡」50号P
- ・ 日本美術院同人小品展日本橋三越本店(3月～4月)「雨後」6号F
- ・ 小野田尚行 宮北千織 二人展、赤井一恵堂(4月～5月)、「春の帽子」6号・「眠り」10号F・「うたごころ」10号P
- ・ 第9回21世紀展、東京美術倶楽部(4月)「雨後」20号M
- ・ 院展の気鋭8人展、大沼山形本店7階ギャラリー(4月)「春の野」20号M
- ・ 五浦会、高島屋京都店(5月)、「新緑」6号F
- ・ 第2回松邑会、西邑画廊(6月)、「花帽子」6号F
- ・ Human展、半澤美術店(6月)「泣く夢を見た」10号P
- ・ 第2回土佐の紙 大濱紙に描いた日本画展、いの町紙の博物館(6月)、「春野」10号F
- ・ 第1回ようようの会、春風洞画廊(7月)、「ささやく」12号F
- ・ 第94回日本美術院展、東京都美術館他13ヶ所巡回(9月)、「天の川」170×215cm
- ・ 日本美術院同人新作品展示会、日本美術院(12月～12月)、「冬の窓に」10号F
- ・ 第22回日本美術院同人展、松坂屋(11月～12月)、「繡」8号F
- ・ 第15回風靡の会、靖雅堂夏日美術展(11月)、「秋霖」12号F
- ・ 第3回樹下展、ギャラリー蓬萊(11月)、「彩雨」10号F・「雨後」10号F
- ・ 第1回夢咲史、福屋八丁堀本店(12月)、「冬の窓に」8号F・「繡」6号F
- ・ 第5回煌輝会、日本画展高島屋(2月～3月)、「安眠できぬ夜」10号F
- ・ 日本美術院同人小品展、日本橋三越本店(3月～4月)、「雪になる」6号F
- ・ 第65回日本美術院春季展、日本橋三越本店他11ヶ所巡回(4月)、「冬の庭」50号P
- ・ 第10回21世紀展、東京美術倶楽部他5ヶ所巡回(4月)、「天の川」20号P(72.2×53.0cm)

◆ 前田力

- ・ 「バンジーと馬」 広告記事、第2回松芭会、共著、月刊美術6月号(6月)、p. 162
- ・ 「灰の空」 春の院展特集記事、山陽新聞(6月)、p. 16~17
- ・ 「灰の空」 第64回春の院展「団体公募展」、月刊美術8月号(8月)、p. 84
- ・ 造形作品写真「灰の空」、文星芸術大学紀要21号(3月)、p. 13

- ・ 第15回ミニアチュールとガラス絵展、森田画廊(6月)、「玩具とバンジー」SM
- ・ 再興第94回秋の院展、東京都美術館(9月)、「白い壁」170cm×225cm 無鑑査 図録p. 97
- ・ 第25回初音会展、大丸心齋橋店・大丸東京店(9月)、「桜」P10号
- ・ 第1回夢咲史展、福屋広島店(11月)、「汽車と花」P8号、「かたつむり」F6号
- ・ 一21世紀を翔る一明日の日本画展、松坂屋(12月)(1月)、「聖者の行進」P10号
- ・ 第3回次世代会、岩勝画廊(2月)、「雪の日」F10号
- ・ 第5回煌輝会、日本橋高島屋・横浜高島屋(9月)、「かえる」F10号
- ・ 第16回ミニアチュールとガラス絵展、森田画廊(3月)、「つばき」SM
- ・ 第65回春の院展、日本橋三越(3月)、「そよ風を待つ」145cm×70cm 奨励賞受賞

◆ 柏谷明美

- ・ 造形作品写真「光の符号」、文星芸術大学紀要21号(3月)、p. 15

- ・ 再興第93回院展、鳥取県立博物館(5月)、「導」215cm×170cm
- ・ 第64回春の院展、日本橋三越他3カ所(3月~9月)、「光の符号」、S40号、図録p. 66
- ・ 第2回松邑会、西邑画廊(6月)、「翠影」F6号
- ・ 第7回新樹海、日本橋三越他1カ所(6月~7月)、「かよい路」F10号、図録p. 5
- ・ 第10回「聿の会」日本画展、松坂屋本店他1カ所(7月)、「調べ」F10号・「紡ぐ」F30号
- ・ SEOUL-TOKYO女性が見た韓国と日本、日本展・韓国展(2月~3月)、「輪廻」F10号
- ・ 第65回春の院展、日本橋三越(3月)、「境界」F6号 図録p. 61

◆ 大沼映夫

- ・ 造形作品写真「二つの大きな顔」、文星芸術大学紀要21号(3月)、p. 19

- ・ 現代の絵画所蔵作品展、碧南市現代美術館(3月~5月)、「花の歌」163×228.5cm
- ・ 第9回21世紀展、東京美術倶楽部(4月)、「匂う薔薇」F15写Pミックトメディア
- ・ 絵画小品展、名古屋丸栄(4月~5月)、人気作家・日本画・洋画4写以下の小品展
- ・ 第83回国展、国立新美術館(5月)、「二つの大きな顔」194×293cm、図録23頁
- ・ 巨匠展—今そして未来2009、日本橋三越(5月)、「暖かい顔」20F など計2点、図録23頁
- ・ 第3回 個の地平、大阪高島屋(6月)、「彩彩の人」写F100P20F など計2点、図録14頁

◆ 宮下 實

- ・ 「構図で楽しむ世界の名画」単著、生活の友社(3月)、p. 1~142
- ・ 「リーダーの視界にあるものは」共著、月刊ギャラリー(4月)、p. 120~122
- ・ 「午後のグラナダ」、美術の窓(6月)、p. 217

- ・ 「午後のグラナダ」、現代日本の美術(1月)、p. 308
- ・ 造形作品写真「午後のグラナダ」、文星紀要21号(3月)、 p. 21
- ・ 第83国展、立新美術館2カ所(4~5月)、油画2点(F100号、F50号)、スケッチ4点、図録p. 81
- ・ 個の地平展、本橋高島屋など2カ所(8月~9月)、油画3点(F50号~F6号) 図録p. 28
- ・ 三人展、フォルム画廊(10月)、油画5点(F30号~F3号)
- ・ 第41回十騎会、日本橋高島屋など2カ所(12月)、油画5点(F50号~F10号).
- ・ 15の視点、光画廊(12月)、油画1点(F6号).

◆ 加藤忠一

- ・ 造形作品写真「4 elements」、文星紀要21号(3月)、p. 23
- ・ 第43回栃木県新作家集団展、栃木県総合文化センター(12月)、「4 elements」150×150cm 4点

◆ 石山かずひこ

- ・ 造形作品写真「暮れていく操車場」、文星紀要21号(3月)、p. 27
- ・ 「色と心とかたち展」共著、文化庁地域芸術振興プラン事業財団法人(10月) 図録掲載あり
- ・ 個展、銀座ギャラリー・アートもりもと(6月)、近作14点
- ・ 個展、いわき市アートスペース泉(8月)、旧作・新作
- ・ 栃木県芸術祭、栃木県立美術館(9月~10月)、「暮れていく操車場」F40号
- ・ オーロ(金)遊び展、いわき市アートスペース泉(9月)、近作
- ・ 色と心とかたち展、会津若松市文化センター(10月)、4人展、近作

◆ 武藤岩雄

- ・ 造形作品写真「裸婦と動物達」、文星紀要21号(3月)、p. 29
- ・ ABCの会展(フランス政府招費学生の会)、日仏会館(4月)、「ニュー・ジャージー」F10号
- ・ 新制作協会展、新国立美術館(9月~10月)、「裸婦と動物達」F150号

◆ 多田夏雄

- ・ 造形作品写真「巖」、文星紀要21号(3月)、p. 29
- ・ 新美術協会展、東京都美術館(6月)、「巖」180×360cm 屏風
- ・ 市民芸術祭美術展、宇都宮美術館(6月~7月)、「生命の樹」F50号
- ・ 個展、春風館館野道場(8月)、屏風20点 ほか富士をテーマとした小品数点
- ・ 個展、文星芸術大学(10月~11月)、屏風及び小品数点
- ・ 個展、キララ・アート・コミュニケーション・ギャラリー(11月)、S50号と小品30点

◆ 杉山惣二

- ・ 新制作展 2009年、新国立美術館(9月)、「女」う、'09
- ・ 5人展 2009年、シェイトリップアートギャラリー銀座(11月)、夢のあと 他3点
- ・ 個展、テラコッタ展「二つの世界」、さいか屋デパート藤沢店(1月)、湘南ピーナス 他45点

◆ 伊藤萌木

- ・ 造形作品写真、文星紀要21号(3月)、「岳と雲」p.15.
- ・ ケンブリッジ大学クレアホールオフィシャル展、ケンブリッジ大学クレアホール(4月～12月)(3月)、「極点を指す風」「春風」
- ・ 第48回日本現代工芸美術展、東京都美術館(4月)、「山と旋風」図録掲載
- ・ 第41回日展、国立新美術館(4月～12月)(11月)、「岳と雲」図録掲載
- ・ 栃木日展、さくら市ミュージアム(12月～2月)、「岳と雲」
- ・ 第49回日本現代工芸美術展、東京都美術館(3月)、「どんどこんどこと西風」図録掲載

◆ 吉田利雄

- ・ 第3回現代日本彫刻作家展、東京都美術館(4月)、「脱」200×140×120cm 図録掲載
- ・ STEELERS、天王洲セントラルタワー(12月)、「眺」80×80×80cm、世田谷ケーブルテレビ放映

◆ 金子修也

- ・ なし

◆ 巽博

- ・ なし

◆ 千葉知司

- ・ 造形作品写真「Star (LINE ART 2009 Ghent, Belgium ジャパンプレミア出品)」、文星紀要21号(3月)、p.27
- ・ Honey Salon新規店舗のアートディレクション、ルミネ横浜(3月)、広告制作及びアートディレクション
- ・ ざぶん賞展2009、石川県近代美術館ほか(11月)、小中学生の文章への装画
- ・ LINEART 2009 Japan Premiere、ギャラリー北井・東京、ジャパンプレミア展への作品出品
- ・ 第27回「日本美術の輸出」展 in ベルギー 2009、在ベルギー日本国大使館 広報文化センター(11月)、ベルギープレミア展への作品出品
- ・ LINEART 2009、Flanders Expo-Main Hall, Ghent, Belgium(12月)、作品出品

◆ 中野公吾

- ・ なし

◆ 岡本幸久

- ・ 八雲展、大崎O美術館 (5月)、CG映像作品「自画映像」

◆ 細田秀明

- ・ 『とちぎ食の回廊』シンボル展示、マロニエプラザ (10月)、栃木県農政部農村振興課、アートディレクション、デザイン、写真撮影
- ・ 『とちぎ食の回廊』シンボル展示、東京都庁 (12月)、栃木県農政部農村振興課、ポスターのデザイン制作、マロニエプラザの再構成

◆ ちばてつや

- ・ あしたのジョー原画展、渋谷ロフト (東京) (7月)、あしたのジョー40周年の企画で、原画を展示

◆ 堀江一郎

- ・ 「映画に学ぶ魅せるマンガの作り方」、単著、グラフィック社 (単行本) (1月)、全192頁

◆ 田中誠一

- ・ 文化庁国際メディア芸術祭に応募、国立新美術館 (2月)、審査委員推薦作品に選出
- ・ 「剛球少女 (女子野球部員誕生編)」、共著、実業之日本社 (3月)、全470頁
- ・ 「剛球少女 (魔球ナックル編)」、共著、実業之日本社 (4月)、全470頁
- ・ 「剛球少女 (涙のマウンド編)」、共著、実業之日本社 (5月)、全470頁
- ・ 「剛球少女 (涙のマウンド編)」、共著、実業之日本社 (6月)、全470頁

◆ 千葉修平

- ・ 造形作品写真「定点観測」、文星紀要21号 (3月)、p. 39
- ・ Night Gallery vol. 3、宇都宮白木屋本店ギャラリー (6月)
- ・ ぎぶん展、栃木総合文化センター (1月)、イラスト作品出展

◆ 布山 毅

- ・ スペインの美術館におけるアニメーション・ワークショップの実践研究、共著、文星紀要第21号 (3月) P. 85~92
- ・ ANIMA CART国立ソフィア王妃芸術センター (スペイン) (7月) スペインの子どものためのアニメーション・ワークショップの企画・シナリオ作成
- ・ イントゥ・アニメーション5 横浜、横浜赤レンガ倉庫 (10月) 日本アニメーション協会主催のイベントで、ワークショップを実施

◆ 上原利丸

- ・ 造形作品写真「光陰-新しき絆に染まる」、文星紀要21号 (3月)、p. 3
- ・ 第49回日本現代工芸美術展、東京都美術館 (3月)、「春宵-惜しき別れに染まる」180cm×90cm

- ・ 上原利丸個展、銀座光画廊(4月)、額物29点 八ツ 15点 太子 11点 四ツ 3点
- ・ 第59回埼玉県芸術祭展、埼玉県立近代美術館(5月)、「おひな様に染まる・青富士」本友禪染
- ・ 栃木県芸術祭美術展、栃木県立美術館(9月)、「おひな様に染まる・青富士」本友禪染、
- ・ 第41回日展、国立新美術館(11月)「光陰-新しき絆に染まる」180cm×125cm本友禪染、図録
- ・ さいたま市芸術祭展、浦和美術館(11月)、「寅年に染まる」八ツ
- ・ 栃木・日展作家展、さくら市ミュージアム(1月)、「光陰-新しき絆に染まる」180cm×125cm
- ・ 創作おひな様展、銀座和光並木ホール(1月)、「浮遊-おひな様に染まる」屏風

◆ 岡本泰子

- ・ 造形作品写真「nest」. 文星紀要21号(3月)、p. 5
- ・ 「大哺乳類展-陸のなかまたち」図録用系統図および会場展示物解説用系統図、編著、国立科学博物館、朝日新聞社(3月)、p. 12-46
- ・ テキスタイルの未来形福岡展、福岡アジア美術館(6月)、「nest 2008」(図録掲載あり) H300cm×W200cm×D100cm
- ・ WDLnet International Invitational Exhibition、HILLSTATE Gallery(韓国)(6月)、「nest 2008」(図録掲載あり) H300cm×W200cm×D200cm
- ・ り展、文星芸術大学ギャラリー(6月~7月)、「Blue」 H80cm×W200cm×D10cm
- ・ 第73回新制作展、国立新美術館(9月)、「nest 2009」(図録掲載あり) H20cm×W20cm×D20cm
- ・ 「世界恐竜大展」、国立中正紀念堂位置展廊(台湾)(12月~4月) 大阪市自然史博物館(3月~5月)、会場説明パネルおよび図録にてイラスト使用
- ・ 百花彩才-テキスタイルアート・ミニアチュール展、玉川高島屋ルーフギャラリー(世田谷・東京)(2月~3月)、「nest 2010-1」(図録掲載あり) H30cm×W20cm×D20cm
- ・ Session/テキスタイルアート・ミニアチュール展、KCCギャラリー(世田谷・東京)(2月~3月)、「nest 2010-2」(図録掲載あり) H20cm×W15cm×D20cm
- ・ 「とちぎの地産地消」パンフレット表紙イラスト、栃木県庁(2月)、木版画 A4サイズ
- ・ 「大哺乳類展-陸のなかまたち」、国立科学博物館(3月~6月)、会場説明パネルおよび図録にてイラスト使用 共著「絶滅哺乳類図鑑」(丸善)より改編

◆ 林 香君

- ・ 造形作品写真「華巖09」. 文星紀要21号(3月)、p. 31
- ・ 「ぎぶん展」企画展、金沢21世紀美術館、栃木県総合文化センター、ぎぶん賞受賞作品・参加アーティスト作品展
- ・ Soaring Voices-Contemporary Japanese Women Ceramic Artists-, フランス国立セーブル美術館(3~6月)、サクラメント美術館(8~10月)、「片翼の天使」「ゼロの軌跡」「環・還シリーズ」
- ・ International Ceramic Festivalスロベニア(10月) 展覧会、「環・還シリーズ」陶とガラス
- ・ 日展、新国立美術館、「華巖'09」特選

- ・ 女流陶芸展2008、京都市立美術館、「0（ゼロ）シリーズ」
- ・ 現代工芸展、東京都美術館、『華巖』

◆ 上野憲示

- ・ 「第13回栃木・日展作家展に思う」単著、下野新聞(1月)、20面
- ・ 「骨董趣味のすすめー骨董市めぐりで学ぶ美の東西交流」単著、「下野教育」No.732(12月)、
- ・ 「再興第94回院展宇都宮展」1～5連載、単著、下野新聞(2月9日～13日)、各20面
- ・ 監修「屏風百景ーびょうぶそぞろあるき」展、宇都宮市上野記念館(5～7月)
- ・ 監修「戦国武将列伝」展、宇都宮市上野記念館(10～12月)

◆ 小町谷朝生

- ・ 「紫色雑考」単著、文星紀要21号(3月)、p. 3～16
- ・ 発表「マティスは色を楽しむ」、国立新美術館(10月)、3者によるシンポジウム

◆ 小林利延

- ・ B S - J 放映、「美術特別番組 ゴッホ最後の70日・ひまわりの画家はあの日殺されたのか」(9月)、テレビマン・ユニオン制作、50分 (原作提供／構成協力／現地出演)

◆ 大滝幹夫

- ・ 現代工芸 美の精粹、共著、『花美術館vol. 12』(11月)、8頁

◆ 梅田一穂

- ・ 「アール・ヌーヴォー室内空間小論」単著、文星紀要第21号(3月)、p. 45～56

◆ 沼尻真理子

- ・ 「ゲルノート・ベームによる『新しい美学』の構想について」単著、文星紀要第21号(3月)、p. 57～84

◆ 伊澤郡蔵

- ・ なし

◆ 島野安雄

- ・ 「新・名水を科学する」分担、日本地下水学会(編)、技報堂(5月)、293頁
- ・ 「見えない巨大水脈 地下水の科学」、企画・編集・資料提出等、講談社(6月)、ブルーバックスB-1639, 769頁
- ・ 「名水を訪ねて(88) 熊本市周辺の名水」共著、地下水学会誌52巻第1号(2月)、p. 109～122
- ・ 「栃木県内の河川水の水質特性」共著、文星紀要第21号(3月)、p. 17～43
- ・ 「平成の名水百選の水質」共著、地下水学会誌51巻第2号(5月)、p. 127～139
- ・ 発表ー日本各地の河川水、地下水、湧水等の同位体特性について(共同)、地球惑星科学関連学会2009年合同大会(千葉幕張メッセ)(5月)、p. 12
- ・ 発表ー阿蘇カルデラ内における地下水の流動機構(共同)、地球惑星科学関連学会2009年合同大会

(千葉幕張メッセ) (5月)、p. 19

- ・ 発表—The chemical evolution of glacier-sourced surface water in southern Iceland. (共同)、地球惑星科学関連学会2009年合同大会 (千葉幕張メッセ) (5月)、ポスター

◆ 丸山純一

- ・ 「TCC (東京カウンセリングセンター) 版ストレスチェック」 (1月)
- ・ 「平成21年度スクールカウンセラー活用事業調査実績報告書」 (3月)

◆ 福田三男

- ・ 「なぞの大寺下野薬師寺」単著、随想舎下野新聞社 (10月)、191頁
- ・ 雑誌「しもつけの心」単著、エッセイ連載 (4月～)、井上総合印刷
- ・ 発表—下野古麻呂没後1300年記念、下野紙市主催 (12月)、基調講演シンポジウム・パネリスト

◆ 村田健

- ・ なし

【7】その他

(1) 公開講座

・平成21年度公開講座

講座	期 間	人 数
油絵	平成21年8月6日～8月8日 3日間	11名
彫刻	平成21年8月3日～8月7日 5日間	3名
染織①	平成21年10月31日 1日間	5名
染織②	平成21年11月1日 1日間	12名
陶芸	平成21年10月10日、10月17日 2日間	11名

(2) 高大連携授業

① 本学と栃木県立益子芳星高等学校（生活デザインコース）

講座	期 間	人 数
陶芸①	平成21年7月30日	16名
陶芸②	平成21年7月31日	16名
アニメーション	平成21年8月3日	16名
Mac体験	平成21年8月4日	16名
染織①	平成21年8月5日	16名
染織②	平成21年8月6日	16名

② 本学と宇都宮文星女子高等学校（美術デザインコース）

講座	期 間	人 数
油 画	平成21年5月1日	19名
	平成21年5月14日	19名
	平成21年6月15日	16名
	平成21年6月25日	19名
	平成21年9月28日	9名
	平成21年10月22日	9名
	平成21年11月19日	9名

③ 本学と文星芸術大学附属中学校

講座	期 間	人 数
陶芸	平成 21 年 11 月 19 日	16 名
染織		17 名
アニメーション		15 名

(3) 第 5 回 とちぎこども芸術祭

栃木県内の小学生を対象に絵画コンクールを開催

テーマ「とちぎの自然」、「だいすきな場所」どちらか任意に選んで応募する。

応募数 918 点

作品展示（入賞以上 100 点展示）

平成 21 年 10 月 21 日 ～ 10 月 25 日 東武宇都宮百貨店 4 階

平成 21 年 11 月 21 日 ～ 11 月 26 日 文星芸術大学ギャラリー

授賞式 平成 21 年 11 月 21 日 午前 10 時より文星芸術大学ギャラリーにて実施

(4) 栃木県高等学校文化連盟美術工芸部会

実技講習会

講座	期 間	内 容	人 数
実技講習会	平成 21 年 12 月 11 日 平成 21 年 12 月 12 日 2 日間	デッサン	60 名

(5) 「日光展 (1)」について

主催：ギャラリー運営委員会日光展実行委員会

会期：2009 年 10 月 30 日～11 月 17 日

主題：本学各専攻が集束して、「日光」というテーマから芸術研究/芸術創作の可能性を探っていく。

展示内容

三猿（会期前半）：「原寸大模型」東照宮宝物館所蔵

眠り猫見取り図（会期後半）：東照宮宝物館所蔵

眠り猫：「原寸大模型」東照宮宝物館所蔵

陽明門写真：2009 年 9 月 25 日撮影

日光金谷ホテルより借用した写真：

「東照宮神厩舎三猿前」明治

「金谷ホテル本館前に並ぶフォード車」大正 5 年頃

「金谷ホテル正面玄関リンドバーグ夫妻」1931（昭和6）年9月
絵葉書：大竹誠氏コレクションより借用、加工して展示

入場者数：会期中、のべ727人。うち北斗祭期間（10月31日、11月1日）489人。

【8】FD会議の設置及び運営要項

本委員会は、本学における教育の質的向上を図ることを目的とした Faculty Development (教育方法改善に関する教員啓発活動。以下「FD」という。)を組織的に推進することを目的に平成20年度に設置した。

本委員会の審議事項は、以下の通り

- ① FDに関する研修会及び講習会
- ② 学生による授業評価に関する事項
- ③ 教員の教育方法相互研鑽に関する事項
- ④ その他、各委員会が必要と認めた事項

・委員の構成

学部長、教務部長、学部選出委員(6名)、学長が指名するもの1名。

平成21年度委員

小町谷朝生(学部長)、宮下 實(教務部長)、上原利丸(FD議長)
石山かずひこ、宮北千織、細田秀明、梅田一穂、千葉修平
小野貴久(教務課長)

